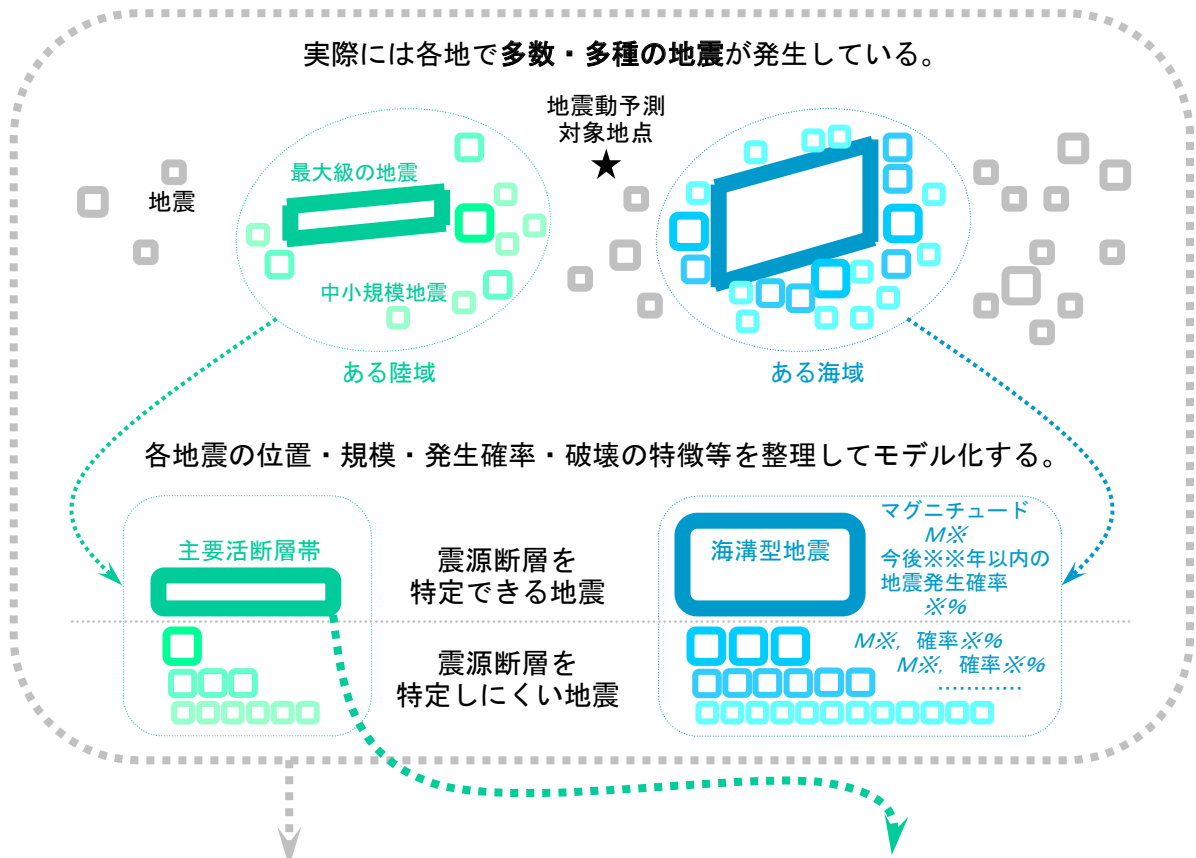


解説：地震動予測地図とは

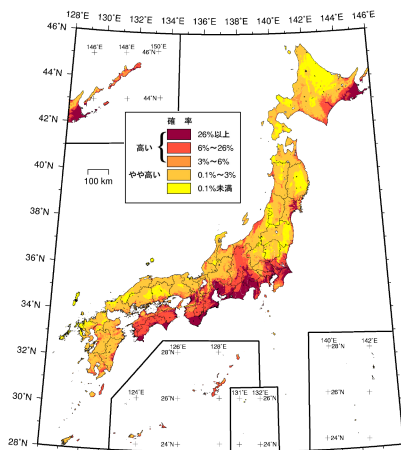
「確率論的地震動予測地図」と「震源断層を特定した地震動予測地図」

地震調査研究推進本部の作成する地震動予測地図には、「確率論的地震動予測地図」と「震源断層を特定した地震動予測地図」という二種類の地図がある。

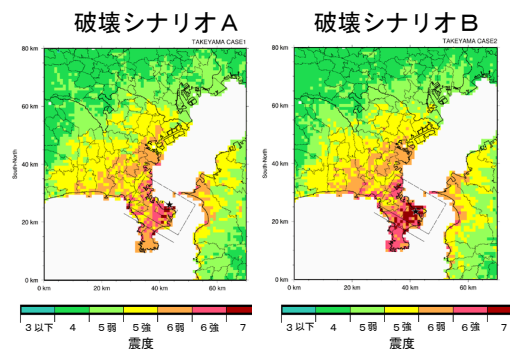


全ての地震の位置・規模・確率に基づき各地点がどの程度の確率でどの程度揺れるのかをまとめて計算し、その分布を地図に示す。

ある特定の地震の破壊シナリオが生じた場合に各地点がどのように揺れるのかを計算し、その分布を地図に示す。



確率論的地震動予測地図



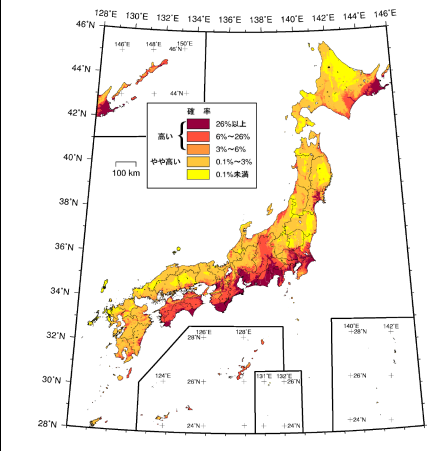
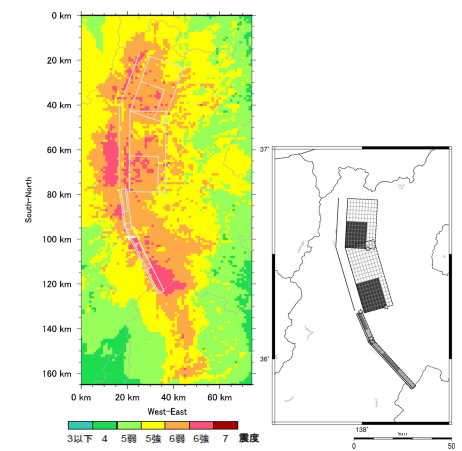
震源断層を特定した地震動予測地図

<注: 図は 2009 年版の例>

解説：地震動予測地図とは

「確率論的地震動予測地図」と「震源断層を特定した地震動予測地図」

- ★ 「確率論的地震動予測地図」とは、全ての地震の位置・規模・確率に基づき各地点がどの程度の確率でどの程度揺れるのかをまとめて計算し、その分布を地図に示すものである。
(詳しくは 解説編 pp. 41~52 参照のこと)
- ★ 「震源断層を特定した地震動予測地図」とは、ある特定の地震の破壊シナリオが生じた場合に各地点がどのように揺れるのかを計算し、その分布を地図に示すものである。
(詳しくは 解説編 pp. 34~40 参照のこと)

	確率論的地震動予測地図	震源断層を特定した地震動予測地図
定義	多数・多種の地震の発生とそれによる地震動の強さを確率論的に処理してまとめたハザードカーブに基づいて各地点の地震動の強さ・期間・確率の関係情報を地図にまとめたもの	ある特定の想定地震の破壊シナリオが発生した場合にある地域に同時に生じる地震動強さの分布を地図にまとめたもの
種類	超過確率の分布を示した地図 地震動強さの分布を示した地図	地震動強さの分布を示した地図
例	多種多数の地震により2009年1月1日より30年以内に震度6弱以上の揺れに見舞われる確率 	想定糸魚川ー静岡構造線断層帯地震の破壊ケース1(右図)による地表の計測震度(左図) 
主な特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・地震動強さ・期間・確率のうちの二つを固定した場合の残りの一つのパラメータの地域分布 ・一つの地震により同時に発生する地震動強さ分布ではない ・周辺で発生する可能性のある全ての地震をその種類毎に確率論的にモデル化 ・現状では経験式(距離減衰式)による地震動評価が基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・予め特定の地震あるいは特定の破壊シナリオを想定する ・複数の地震あるいは複数の破壊シナリオに対しては異なる結果 ・震源・伝播・サイトの各特性に関する地域の詳細情報を利用した高度な地震動評価が可能 ・時刻歴波形が評価されている
主な利用例	<ul style="list-style-type: none"> ・法令整備 ・設計荷重設定・設計指針 ・広域防災計画 ・都市計画・施設立地選定 ・公的教育 ・地震保険料率算定 	<ul style="list-style-type: none"> ・特定の地震を想定した諸対策の立案・震災時行動計画・備蓄計画 ・顕著な地域的・局所の特徴を反映した時刻歴波形を用いた各種建造物の耐震設計・耐震性評価・改修・研究 ・地域の詳細情報自体にも利用価値